

令和8年度 第1回「地域連携担当者」新任研修 開催報告

- 趣旨** 生涯学習・社会教育の専門的知識の習得ならびにコーディネート能力の向上を図るなど、社会に開かれた教育課程を実現する上で学校と地域を結ぶ指導的役割を担う教職員の資質向上を図る。
- 主催** 滋賀県教育委員会
- 対象** 市町立小学校・中学校・義務教育学校、県立中学校・高等学校・特別支援学校において、「地域連携担当者」の校務分掌に新たに位置付けられた教職員、またはそれに準ずる者
- 日時** 令和8年5月11日（月）から5月29日（金）まで
- 会場** オンデマンド配信による開催
- 内容**
 - 開講式
 - 研修のポイント
 - コミュニティ・スクールと地域学校協働活動ってどんなこと
 - 先輩方の実践事例から学ぼう
 - きっと役立つ「しが学校支援センター」
 - アンケート
- 参加者数** 129名

8 研修の概要

本研修は、今年度新たに「地域連携担当者」としての職務を御担当される先生方に、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、担当教員としての役割等をより詳しく学んでいただき、これから力を発揮していただくことを目的として、開催した。

第1回研修では、「開講式」を御視聴後、「研修のポイント」、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動ってどんなこと」、「先輩方の実践事例から学ぼう」、「きっと役立つ『しが学校支援センター』」を御視聴いただいた。

「研修のポイント」では、地域連携担当者としてお取組んでいただきたい具体的な職務について4点（「連携・協働のためのつながりづくり」、「地域資源の活用と校内体制の充実」、「取組の評価や課題への迅速な対応」、「打合せ時間の確保」）を御確認いただいた。

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動ってどんなこと」では、地域と学校が連携し、子どもたちの豊かな学びと成長を支える「コミュニティ・スクール」のあり方について考えを深めていただいた。

「先輩方の実践事例から学ぼう」では、昨年度事例発表いただいた日野町立南比都佐（みなみひづさ）小学校の岡崎 美佐子（おかざきみさこ）様、高島市立安曇川中学校の落合 孝夫（おちあい たかお）様、滋賀県立守山北高等学校の山崎 仁嗣（やまさき ひとし）様の実践事例動画を御視聴いただいた。各校種で熱心に取り組まれている事例を御視聴いただく中で、地域連携担当者の役割について、御理解いただけた。



「きっと役立つ『しが学校支援センター』では、「しが学校支援センター」の活用と依頼の流れについて、御視聴いただいた。「子どもにとってより深い授業教材を提供したい」、「体験活動がしたい、行事に誰か講師を呼びたい…」など、教材探しや授業構成で悩まれていることの解決方法の一つを見つけていただくことができた。

9 参加者のアンケートより

≪「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動ってどんなこと」について≫

- 学校運営の視点から言えば、地域と学校を助けてくれる存在として固定化するのではなく、双方向のパートナーとして位置づける必要があると感じました。例えば、総合的な学習の時間において「学校が地域のために貢献できることは何か」を子どもたちが自ら問い、実践していくアプローチは、地域との双方向のつながりを太くする極めて有効な手立てであると感じました。
- CSは学校運営の方針を決める組織体であり、それを実現していく活動が地域学校協働活動であるわかりました。CSでは教員の働き方改革も含め、子どもたちのさらなる学びの多様化や地域人材の活用などについて話し合い、地域全体で子どもたちを育てる行事や学校運営のあり方を決めるために多様なメンバーで構成されていることもわかりました。
- コミュニティ・スクール（審議機関）と地域学校協働活動（実働機関）の役割について理解を深めました。社会に開かれた教育課程の実現に向け、ハンドルとブレーキ役である校長が示すビジョンや目的に対し、前輪の「学校運営協議会」と後輪の「地域学校協働活動」が一体となって進んでいく重要性を再認識しました。今後は本校においても、この「車の両輪」の機能を最大限に発揮させ、地域と協働した教育活動を戦略的に推進していきたいです。
- 学校、地域住民、保護者が子どもにとって必要な学びを地域の実情に合わせて、地域とともにつくりだせるように話し合い、実際に活動をしながらか子どもたちの成長を学校と地域全体で将来にわたって支えていく取組だということを理解しました。様々な立場の大人と関わることで、子どもたちの価値観を広げ、狭い私たち教員の視野も広げていきたいですし、見守って支えてくださる地域の方との繋がりも深めていきたいです。
- 地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくり、どちらの視点も持つことが大切だと感じました。互いが当事者意識を持ち、「お手伝い」「協力」から一歩進み、「参画」「協働」という意識を持ち、地域と学校、子どもをつなぐ役割を進めていきたいです。子どもを真ん中に置き、学校と地域で子どもの育ちを支えていく学校・地域を作っていきたいです。

≪「先輩方の実践事例から学ぼう」について≫

- 南比都佐小学校、岡崎先生の実践を拝聴しました。3つの学校での取組をそれぞれ同じ視点でまとめられていたので、同じ町内の学校であってもそれぞれに資源や課題が違い、学校独自の取組をされていることがわかりました。このようないわば過疎が進む地域において、おそらく将来は地元を離れていく子が多い中、子どもがどう当事者意識を持ち、どういう学びが展開されているのかが知りたくなりました。
- 高島市立安曇川中学校の実践を視聴しました。地域連携カリキュラム等進んでおられる取組があり、本校ではあまり地域と連携しながら活動できている取組が少ないと感じました。地域とともに楽しみながら進めることができる取組があることを理解しました。
- 特に、守山北高校の実践では、総合的な探究の時間や美術の授業とも連動しながら進めておられたのが印象に残りました。盲学校でも、学校内での生徒数も少なく、なかなか、他の人と出会うことが少ないですが、「普段出会うことがないような方と生徒を会わせたい」という言葉が印象に残り、盲学校でも、地域の方に知ってもらい、関われる場を広げていけることが必要であると感じました。
- 子どもを中心に学校の願いと地域の願いを擦り合わせることが地域との連携の一歩目だと感じました。学校のことや子どものことを共に考え、そこから学習カリキュラムや交流計画を立てる過程が大切だと学びました。交流が単発で終わることのない継続したつながりを考えていくことが大切だと学びま

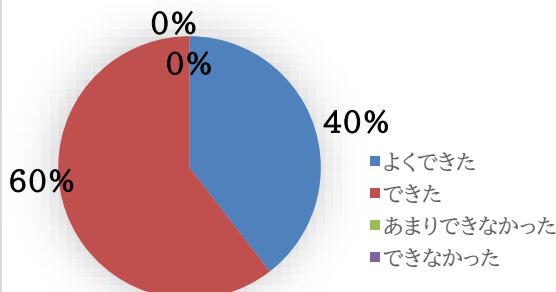
した。

- 3つの小学校の実践を聴かせていただき、それぞれの学校でよさや課題から熟議し、どのような子どもを育てていきたいか等、方向性を共有されているところが良かったです。また学習活動の中で地域の方がティーチャーとなり進めておられるところ、活動の様子を広げておられるところも参考にしていきたいです。

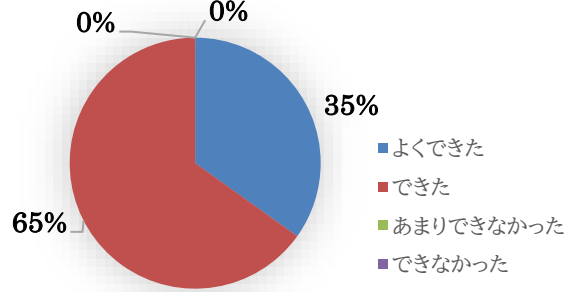
《「しが学校支援センター(学校支援メニュー)」について》

- 学校の課題に対して、しが学校支援センターを活用することで、企業などとの連携を円滑に進めることができることを知りました。学校全体でどのようなことに取り組んでいきたいかということを洗い出し、その課題を解決する手段として、しが学校支援センターを通して、解決に導けるのではないかと感じました。
- 学校支援メニューを活用することで、地域や社会との連携を、持続可能な形で学校の教育計画に組み込むことができると感じました。また、教員の負担を軽減したり、教育活動の質を向上させたりする上で有効だと感じました。
- 学校支援メニューについて知っていて活用したこともありましたが、自分自身に地域連携という視点での捉えがあまりなかったように思います。新たに連携という視点でできることを考えると、今後の活用のイメージが広がりました。
- 新しい体験活動や講師を探すのは手間がかかるため、学校は前年度まで実施していた内容をそのまま引き継ぐことが多いと思いますが、分野別に整理されており、実践例や連絡先等の情報を分かりやすく示していただいているので、ぜひ活用したいと感じました。

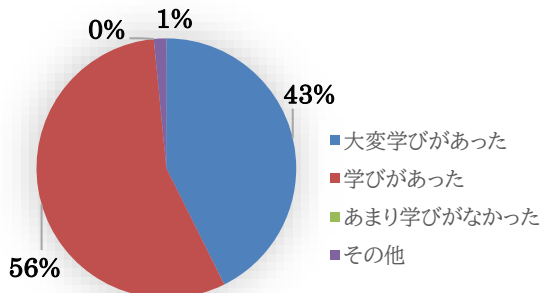
「地域連携担当者」としての役割について理解を深めることができましたか。



「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動」について理解を深めることができましたか。



「先輩方の実践事例から学ぼう」はいかがでしたか。



「しが学校支援センター」について理解を深めることができましたか。

